

第 16 回 PAC 年次総会出席報告

2009 年 7 月 23 日

(財)日本情報処理開発協会
情報マネジメント推進センター

【概要】

期間：2009 年 6 月 14 日(日) ～ 6 月 20 日(土)

場所：台北(台湾)、The Grand Hotel

出席国：

認定機関 ANSI、IAS(アメリカ)、SCC(カナダ)、JIPDEC、JAB、JASC(日本)、KAB、KAS(韓国)、CNAS(中国)、TAF(台湾)、HKAS(香港)、NABCB(インド)、NAC(タイ)、BoA(ベトナム)、SM(マレーシア)、SAC(シンガポール)、KAN(インドネシア)、PAO(フィリピン)、JAS-ANZ(オーストラリア)、PNAC(パキスタン)、NCA(カザフスタン)、MASM(モンゴル)

認証機関連盟 AACBF(アジア認証機関連盟)、IIOC(独立国際審査登録機関機構)

その他 APLAC(アジア太平洋試験所認定機関協力機構)事務局

PTB(National Metrology Institute of Germany:ドイツ連邦経済協力開発省下での活動の一環として、規格に関する開発途上国、新興工業国支援を行っており、アジア太平洋地域も対象としている)

認証機関(インド、韓国、中国)、FSMS セミナー講師(アルゼンチン)

【PAC 年次総会プログラム】

- | | |
|--|-----------------------|
| I. オープニングセレモニー及びセミナー | II. オープンフォーラム(食品安全関連) |
| III. CMC(広報委員会) | IV. DPC(プログラム開発委員会) |
| V. MLA グループミーティング | VI. TC(技術委員会) |
| VII. ISO 14065 温室効果ガスの妥当性確認及び検証を行う機関に対する要求事項の研修 | |
| VIII. オフィシャルディナー(新規加盟メンバーの MoU 及び新規 MLA メンバーの MLA 調印式) | |
| IX. 総会(写真参照) | |

【各プログラムの概要】

I. オープニングセレモニー及びセミナー

開会挨拶に続き、食品安全マネジメントシステム(FSMS)適用に係る ICT の応用、台湾国内における食品安全管理システムの開発、ISO Guide 65、GlobalGAP、及び Organic Agriculture、ISO 22000、BCR/IFS、HACCP 等に基づく食品安全プログラムについてセミナーが行われた。

II. オープンフォーラム

FSMS に関する研修の提供方法、APEC、IAF における食品安全関連活動、PAC メンバー認証機関の活動についての講演の後、FSMS の研修における優先事項及び推奨される実施方法について PAC メンバー間で議論し、その結果についてプレゼンテーションを行った。

III. CMC(広報委員会) 議長 Lane Hallenback (ANSI)、 副議長 Brett Abraham (JAS-ANZ)

PAC ニュースレター

- 国際認定の日(6月9日)に各メンバー機関が実施した行事等の内容についてフィードバックが集まり次第、次号を発行の予定。

PAC プロモーション

- 新規加盟機関、MLA 署名機関等について内容を更新して、その都度新しいプロモーション DVD を作成した場合のコストを考慮し、ポッドキャストに移行することが代替案として検討されている。
- 自機関のプロモーション活動にポッドキャストを使っているところや、リアルタイムチャット、BSS 等を使って Q&A に活用しているところもあった。

国際認定の日

認定機関の活動に対する理解を得るよい機会であり、メンバー機関が以下の活動を実施した。

- NAC(タイ): Competence をテーマとして半日のセミナーを実施し、認定によるサクセスストーリーを紹介した。国際認定の日のポスターのデザインを使ったマグネットを配布した。
- TAF(台湾): Competence をテーマとしてセミナーを実施した。同様に認定によるサクセスストーリーを紹介した。また PAC Brochure については翻訳したものを年間を通じて使用している。プロモーション資料は、翻訳の他、各地の事情に合わせてカスタマイズして使用するのがよい。
- JAB(日本): Web サイトで公表し、また ISO 関連の雑誌に記事を掲載した。
- SM(マレーシア): 2 日間のセミナーを実施し、認証機関、試験所との対話の場を設けた。
- NABCB(インド): 認証機関、試験所を対象にセミナーを実施した。
- BoA(ベトナム): 昨年はセミナーを実施したが、今年は規格についての記事、IAF/ILAC 会長の声明を公表し、ポスターを掲示した。
- CNAS(中国): 今年を品質と安全の年と銘打ち、政府、認証機関連盟等を招いてのセミナーを実施した。

IV. DPC(プログラム開発委員会) 議長 Venkat (NABCB)、 副議長 Vu Xuan Thuy (BoA)

研修の財源

PTB からの資金援助を受けるとともに、FSMS については APEC SCSC の活動の一部として TILF 基金に援助を申請する予定である。

開発途上国の中には研修参加費の負担が厳しいところもあり、開発途上国に研修の機会を提供する DPC の活動は PAC 活動の中でも重要なものである。

研修の計画

今次総会で GHG(温室効果ガスの妥当性確認及び検証を行う機関に対する要求事項)についての研修を実施。2009年～2010年は以下の予定である。

- FSMS の MLA に備え、2010 年には FSMS の研修を 2 回実施予定
- Auditor Competence (認証機関レベル及び認定機関レベル)
- 製品認証

新規 PAC メンバー候補

BoA(ベトナム)の Vu 氏から、APLAC メンバー、APEC 加盟国でまだ PAC メンバーでないカンボジア、ミャンマーなどに働きかけるとの意向が示された。

V. MLA Group Meeting 議長 Shinichi Iguchi (JAB)

新規分野への MLA 拡大については、以下の議論があった。

- MLA Group Meeting 内で MLA の適用範囲の拡大に関するプロセス(process)及び申請書類(application form)の文書作成が必要である。プロセスで、「なぜ MLA の拡大が必要なのか」についての情報を明確にし、MLA MC 及び TC で承認後、メンバーが承認する。
- MLA 設立のための準備が十分であるか否かを判断する手順を作り、FSMS、ISMS、要員認証への拡大について誰もが納得できる正式な意思決定プロセス、MLA プログラムの策定プロセスを明確にすることが必要である。
- MLA 拡大の対象となるプログラムを運営している認定機関がいくつあるのか、市場のニーズはあるのかなどを十分検討し、正式なプロセスを踏む必要がある。
- ピアエバリュエーター(相互評価員)にも追加の訓練が必要となる。

また、IAF MLA の状況は以下の通りである。

- FSMS:グループが設立され、PAC からは 3 名が登録した。
- ISMS:IAF で適用範囲として拡大することは決定したが、これまで目立った活動はない。PAC TC で ISMS に関する WG ができることが期待される。

V. TC(技術委員会) 議長 Joan Brough-Kerrebyn (SCC)、副議長 Ekanit Romyanon (NAC)

特に以下の点について、活発な議論があった。

ISO/IEC Guide 65 の箇条 15 の解釈について

製品認証における適合性評価機関の義務として、サーベイランスまたは認証プロセスにおいて組織に寄せられた苦情を継続的に管理、記録することが含まれるか否かが論点となった。

ある適合性評価機関は、これを継続的に管理していないことを理由に不適合を指摘されたために、認定機関に異議を申し立てた。そのため当該適合性評価機関を認定している認定機関が、PAC メンバーに意見を求めたものである。この適合性評価機関の解釈では、適合性評価機関が供給者の認証製品に対する苦情に対処しなければならない場合にのみ、苦情について把握すればよいということであった。

ISO/IEC Guide 65 の箇条 15 が苦情の記録を「継続的に行うこと」を要求しているか否かの議論は決着がつかず、最終的には CASCO (Committee on Conformity Assessment 適合性評価委員会) に送られることになった。今後 CASCO の動きを注視する。

設計責任が含まれるか否かに基づく審査工数の増減

IAF MD5 「QMS 及び EMS の審査工数に関する IAF 必須文書」附属書 A、複雑さと審査工数の関係のグラフについて、NABCB(インド)から PAC TC へ Discussion Proposal が出された。

審査工数グラフの出発点に設計責任(design-responsible)を含むか否かで審査工数の増減の考え方が変わってくる。工数グラフの出発点に設計責任を含んでいなければ、設計が該当する場合には認証機関は工数を増やさなければならないことになる。これに対し、以下の議論があった。

- このグラフは混乱を招きやすいので作り直すべきである。
- design-responsible という言葉が混乱を招くので、明確にすべきである。
- 認証機関はこの表をもとに自身の工数を正当化できる根拠を持たなければならない。個別に状況が異なるので、認証機関が顧客に対し適切な工数を提供するための必要最低限の指針としてグラフがある。
- PAC の立場としては、IAF がこの部分を改訂して、より明確にすることを希望する。
- 本来は MD 5 全体を見直すべきと考える。この文書は投票で承認されたが、コメントが反映された部分は少なく、もとの IAF GD 2、GD 6 の附属書に最小限の変更しか施されなかった。
- 出発点は、design ではなく、平均的な複雑度であるべきではないだろうか。

以上の内容をまとめて IAF TC に Discussion Paper として文書を送付して検討を依頼する。PAC メンバー以外にも支援者がいると思われる重要な問題である。

また、香港では認証機関のほとんどが海外認証機関で、EA の「EA Guidance on the Application of ISO/IEC 17021: 2006 for Combined Audits」という指針を参照しており、EA 指針との統合も検討すべきとの指摘があった。

Disclosure of Accreditation and Certification Activity (JASC)

マネジメントシステム認証の信頼性を向上させるための情報公開を提案するプレゼンテーションがあった。JASC の提案には、PAC メンバーからコメントを募集して反映させた後、PAC がサポートする旨を付記して IAF TC 議長に送付することとなった。

新規 MLA のためのタスクフォース

・FSMS

主査タイ、副主査 JAB、メンバーは JAS-ANZ、NABCB、CNAS、TAF と、タイの農業・食品関連当局メンバー、ANSI、KAB

・ISMS

JIPDEC が主査、その他のタスクフォースメンバーは、JAS-ANZ、CNAS、KAB、JAB、TAF、IOOC

・要員認証

ANSI、NABCB、JAS-ANZ、IAS、JAB、KAN

国外認定の手順等

GD3(国外認定に関する指針)を改版して IAF Mandatory Document(MD)とする案は、クリティカルロケーションの定義、should、shall の使い分けについて議論が分かれ、2008 年 9 月の投票では承認されなかった。その後 3 月の IAF TC での議論の結果、ISO/IEC 17011 の適用に関する MD の第 1 回改版の際に、クリティカルロケーションの定義を含めることとし、それまでの間 GD3 の適用は継続することが提案された。これについて、以下のような意見が上がった。

- クリティカルロケーションの訪問の頻度、地元認定機関との協力等、17011 の要求事項にはないが GD3 に規定されていることについて、GD3 が廃止となった後のことが懸念される。
- 現行の国外認定ポリシーを考慮せずに、17011 にのみ依存することができるのだろうか。
- IAF/ILAC A5 文書(ISO/IEC 17011 の適用)や ML5(IAF における国外クリティカルロケーション/国外事業所の一覧表作成に関する手順)で GD3 の代替となり得るのか。
- IAF/ILAC A5 文書を改訂する可能性もあるという。GD3 見直しのためのタスクフォースが新たにクリティカルロケーションの定義づけをすれば、ISO/IEC 17011 の適用指針に反映されるだろう。それまで GD3 は残るが、ISO/IEC 17011 の適用指針に国外クリティカルロケーションの定義が加えられれば、GD3 は廃止になるだろう。その際に GD3 の廃止により扱われなくなった内容はどこかで補わなければならない。

今後のアクションとしては、GD3 見直しのタスクフォースに GD3 の内容の一部を残すことが必要であるという PAC の見解を出す。

VI. ISO 14065(温室効果ガスの妥当性確認及び検証を行う機関に対する要求事項)の研修

ANSI の Ann Bowel 氏、JAB の牧野睦子氏を講師として、ISO 14065 について 1 日半の研修が行われ 60 人以上が参加した。

VII. オフィシャルディナー(MoU 及び MLA 調印式)

新規加盟メンバー IAS(米)、MASM(モンゴル)、NCA(カザフスタン)が MoU に署名した。同じく新規加盟メンバーの SLAB(スリランカ)は今次総会を欠席した。

KAN(インドネシア)、SM(マレーシア)が製品認証の MLA に調印した。

VIII. 総会

PAC メンバーシップ及び MLA メンバー

フルメンバー 22 機関に 4 機関が新規に加盟したため 26 機関、アソシエートメンバー 2 機関を加え合計 28 メンバーとなった。

KAN(インドネシア)、SM(マレーシア)が製品認証における MLA に調印したことにより、製品認証の MLA メンバーは 10 機関となった。QMS は 15 機関、EMS は 12 機関である。

財務報告

財務監視委員会(Sunarya, Jeff Chen)の報告によれば、財務状態は健全で特に問題はなかった。

現在、PAC Strategic Plan で定めた内部留保の金額を下回っているため、メンバーの年会費を約

14%増額する2010年予算も承認された。

PACの法人化

JAS-ANZのGalloway氏の協力により、定款の草案がほぼ完成し、メンバーに回付予定である。

MLAグループ及びMLA MCからの報告

MLA分野拡大のための正式な手順を作成することが決定した。

またMLA MCのメンバーの任期が全員2010年に切れるが、全員一斉に交代するのではなく、移行措置として1年ごとに一人ずつ交代するようにしたいとのことであった。

IAFの主要メンバーの指名

IAF次期会長としてRandy Dougherty氏(ANAB)が選出される見込み。PAC議長Nilsen氏は、会長について打診されたが引き受けられなかった。ただしIAF役員のポジションを継続することは可能とのことである。

IAFのVice ChairとしてXiao(CNAS)とSINCERT-FIDEAのLorenzo Thioneとが候補に上がっている。(7月6日のIAFからのメールで、Xiaoの選出が決定したとのこと)。

IAF MLA MC ChairはSteve Keelingが候補となっている(7月6日のIAFからのメールで、選出が決定したとのこと)。

IAF Governance Proposals

IAFでの投票などメンバーの義務を各メンバーに再認識させるため、MoUを改訂し、メンバーの義務について明確にするとともに、5年ごとにMoUの署名を更新(再署名)しなければならないとする案が出されている。

またPL1(行動規範)は、これまで認定機関メンバーだけが署名していたが、すべてのメンバーが署名するようにする。これに伴いPR2「IAF委員会及び下位グループの編成、並びにIAF文書策定に関する一般手順」の関連箇所も改版し、すべてのIAF文書に対するメンバーの投票状況について、公表することにより、メンバーの投票を促す。

このようなIAFの手順、方針の改訂により、関連するPAC文書、プロセスの改訂も必要となる。

今後の研修について

FSMSの研修について、APEC TILF基金からの援助が受けられた場合、研修を主催したい機関を募集したところ、インドネシア、中国、マレーシア、シンガポール、ベトナム、タイなどが立候補した。また、GlobalGAPとOrganic Foodのいずれに基づく研修を優先して実施するか採決が行われた。多数決によりOrganic Foodを優先することとなり、PTBに資金援助を要請することになった。2010年の第1四半期(1月又は2月)に実施する。GlobalGAPについては、その後に別途開催することとなった。この研修を実施するホストとしてタイのNACが立候補した。

次回(第17回)総会会期及び開催地

2010年6月12日～19日 ウェリントン(ニュージーランド) (JAS-ANZ主催)

以上